

床スラブに対する一般居住者の要求性能

－住宅の構造安全に関する研究（その5）－

○久木章江** 石川孝重* (*日本女大, **文化女大)

目的 阪神・淡路大震災をきっかけに、住まいの安全や性能について着目されるようになり、性能型の設計に移行するとともに、住宅性能表示などにも関心が高まっている。前報では、一般居住者が明らかにすることを期待する住宅性能について分析し、さらに性能表示や性能の掲示に対する意識について考察した。本報では、住宅の一部位である床スラブに着目し、住まい手が床スラブに対してどのような性能を期待しているのか、また自宅の床スラブの性能をどのように評価しているのかについて調査し、分析を行った。

方法 九州各県の一般居住者を対象にアンケート調査を行った。対象は2世代以上の家族で暮らす夫婦で、大部分は40～50歳代である。設問内容は様々な住宅性能の重視度合、自宅の床スラブに発生している不都合、自宅の床スラブに対する安全性および使用性能の評価、想定される床スラブの最大許容積載重量などである。

結果 結果の一部を纏めたものを以下に示す。一般居住者の住宅性能に対する意識は比較的高いが、具体的な知識が不足したり偏った情報による誤認識なども目立っている。

- ①「床スラブにはどんなにもものを載荷しても壊れない」と考えている人が多く、実際の設計時に想定されている重量より多くの積載物が載荷できると考えられている。
- ②現状調査の結果、きしみやたわみを中心に何カ所か不都合の生じている住宅が大部分であった。なお、これらの不都合は築10年から20年の間に発生したとの回答が多い。
- ③自宅の床スラブの使用性能に多少の不備が生じている状態でも「早めに修理を行う」という意識は少なく、大部分の回答者は「危険を感じたら修理する」と考えている。